

天方地区ワークショップ通信

No. 4
R1.5.15

『目指せ！住みやすい天方』天方を楽しもう！味わおう！
～今住んでいる自分達の活躍とこれから住む人達との交流を通じて～

森町役場保健福祉課
天方地区振興連絡協議会

昨年7月のアンケート作成に始まり、3月のワークショップまで、9か月に
渡りご協力いただきありがとうございました。



check

アンケートから以下の結果が分かりました。

イベント開催
に係る活動が
上位に！

天方地区住民の関心が高い活動

- ①子どもや高齢者対象のイベント
- ②地区外の人を呼び込むためのイベントや交流活動
- ③生涯学習や健康づくり活動、地区住民が集うイベント

結果をもとに、ワークショップでは、
次の視点で話し合いを重ねました。

テーマは
交流

地区みんなで
世代間で
地区外と

糸口は、

農村を楽しもう！
グリーンツーリズム

(販売・食事・体験・加工・宿泊)

もったいない

そこで、話し合いだけで終わるのは

今後は、ワークショップを具体化していくためのミーティングを開催する
事になりました。日程は下記のとおり、是非ご参加ください！

記

1 天方ミーティング開催について

①テーマ ～ちよつと天方のこと、自分のこれからのこと、
一緒に考えてみませんか～

②日時 令和元年6月7日(金)午後7:00～8:30

③場所 天方生活改善センター大広間

2 連絡事項

①お車でお越しの方は、センター駐車場、または天方小学校プール東側駐車
場をご利用ください。

②ワークショップの内容を次ページ以降にまとめましたので、是非ご一読
ください。

お問合せ先 森町役場保健福祉課 地域包括支援センター係 Tel85-6341

ワークショップ通信は参加されなかった皆様にも広く内容をお知らせするために発行しています。

第1回

地区内の子どもと高齢者、世代間や地域外から訪れる人との「交流」をテーマに「農村を楽しもう！グリーンツーリズム」を糸口とし、「販売・食事・体験・加工・宿泊」の活動について4グループに分かれてアイデアを出し合いました。

| | タイトル | 概要 |
|---|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① | 天方体験ワールド！ | 「体験」により町外から訪れる人を増やし、さらに「宿泊」する人を増やし、最終的には移住・定住に繋がりたいという意見でまとまった。そのための料理作りや竹などの加工、宿泊等の複数アイデアが出され、すべて体験を通じた活動として意見がまとまった。 |
| ② | アクティ森をアクティブ森に | ジビエ、和菓子、植物を使った工作、星空観察等の「体験活動」とそれに伴う「販売・宿泊」に関するアイデアが出された。地域独特の食べ物があることを踏まえ、「食」の体験活動をアクティ森で行おうと発想が膨らんだ。 |
| ③ | 天方っ子が愛せる故里 | 共有して使用できる農業資源を活かした「体験型のイベント」を企画し、子どもたちに「天方の魅力」を知ってもらおうという意見でまとまった。講師に天方の伝統をよく知る高齢者を招き、活躍を期待するというアイデアが出された。 |
| ④ | 天方に泊まって田舎暮らしを楽しもう！ | 宿泊施設を拠点として、天方ならではの味(食事)を提供したり、天方の特産物をお土産に買ってもらったり(販売)、材木の廃材利用や竹細工などの加工、郷土料理の体験等をしてもらい、訪問者には天方の地域資源を十分に楽しんでもらえるようなパッケージを提供する。 |

第2回

第1回で出されたアイデアからひとつ選び、体験活動アウトラインを作成しました。さらに、活動のパートナーとして高齢者に期待する役割や活動の実施主体、場所、そのターゲットについて話し合いました。

| | タイトル | 概要 |
|---|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① | 〈天方〉温故知森体験ワールド!! | 田舎暮らしに憧れている20~30代の子育て世代や天方地区出身の方などに天方の昔ながらの食、暮らしを体験してもらうための粟作りと作り方、葛布の作り方など高齢者に伝授してもらいながら、粟なら鍛冶島町内会、葛布なら葛布町内会で体験してもらう。 |

第3回

第2回で作成した天方の魅力を活かした体験活動アウトラインをもとに**アクションモデル(マネジメントとマーケティング)**について検討しました。

| | タイトル | 概要 |
|---|----------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① | 温故知森 体験 ワールド | 天方地区の20~30歳代の子育て世代、天方から転出した人を対象に高齢者や地域の人から知恵をいただきつつ、葛布づくり体験を提供する。体験内容は、葛採りから布作りまでの各工程について一年中提供。また体験～職人コースまでを用意し、リピーターを確保していく。あわせて宿泊プランに天体観測、ジビエ料理、半夏生ウォーキングなど天方を楽しんでもらう。高齢者葛布づくり体験を提供(職人コースまであり)。葛糸づくりを高齢者に担当してもらい、宿泊プランとともに天方でしかできない体験もあわせて提供。 |
| ② | 田んぼの 森 | 地域の子どもやその親、天方地区外の人に「こうせん作り」「古代米入りのモチづくり」「わらじ作り」など、高齢者が先生となって体験活動を提供。 |
| ③ | 自然体験 子どもの頃の 体験を伝える | 四季の自然体験を地区内だけでなく地区外のこどもたちに伝える。自然の不便さも含めて楽しみ、大人が楽しむことでさらにこどもたちに興味を持ってもらう。 |
| ④ | 天方で茶 刈 ^{ちゃっ} 楽しもう | 田舎好きのファミリー層を対象に高齢者を先生役として茶摘みや手もみ等の体験を提供。茶の木オーナー制度も取り入れ、体験活動を楽しんでもらう工夫をしていく。 |

| | タイトル | 概要 |
|---|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ② | アクティ 昭和の森 | 活動のパートナーを高齢者にした結果、「昔の遊び」についての体験活動の話が広がった。 高齢者を先生役としての活躍を期待し、子ども連れの家族を中心に見据えた活動アウトラインを作成した。 |
| ③ | 自然体験 子どもの頃の 体験を伝える | 天方地区内だけでなく地区外の子どもたちに天方の魅力を知ってもらうため、自然体験をもとに高齢者から様々な知識や遊び方を子供らに伝える。 地区住民で企画立ち上げに携わり、体験場所として天方小学校を中心に設置できるようにする。 |
| ④ | 天方で茶刈 (ちゃっかり) 楽しもう | 田舎好きの家族を対象に「お茶」に関わる様々な体験をしてもらうため、茶摘みの方法、手もみの技術などの知恵や技術を高齢者から伝授してもらいながら、4班のメンバーが中心となって非営利茶園での体験を提供する。 |

第4回

第3回のアクションモデルをもとに実施主体とサポート体制を検討し、今後できそうな高齢者支援についての議論した。

あわせて、これまで検討してきた体験・交流活動が、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにどのように生きていくかについてグループ毎に考えました。

| | タイトル | 高齢者の役割 | 運営グループ | 新たにできそうな高齢者支援 |
|---|------------------------------|-------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① | 温故知森 体験 ワールド | 体験場所を交流の場として提供するだけでなく、体験者の指導などの仕事をしてもらったり、ものづくりを楽しんでもらう。 | 送迎手段を確保し、60歳代をメインとした活動グループをつくり、アクティ森を活用する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・外出支援 ・安否確認 ・声かけ、見守り ・有償ボランティア ・家事支援 |
| ② | 田んぼの森でもちをつこう！ | 講師としてたくさんの人を迎え、必要な人には車で送迎し、お互いに話ができる場としても参加してもらおう。 | てんぼうの里を中心に、(株)アマガタ、山里の市、あじさいグループ、アクティ森、かわせみキャンプ場、ツーリズム研究会 | <ul style="list-style-type: none"> ・お昼ご飯やおやつ(一緒に食べる) ・車での送迎 ・安否確認(黄色いハンカチを家にかける) |
| ③ | 自然体験 子どもの頃の 体験を 伝える | 体験の先生になってもらう。会場まで来られない人の家まで行き、そこで昔の遊びを覚えてもらったり、みんなでおしゃべりする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地区連の協力(社教、保健委員、体協、交通安全) ・各種グループ(てんぼうの会など) ・各町内会にコーディネーターを配置 | <ul style="list-style-type: none"> ・安否確認 ・個々の得意なモノをできる場の提供(特技等) ・一人一人が目配り気配り |
| ④ | 天方で 茶刈 (ちゃかり) 楽しもう | 居場所を提供、先生になってもらう。交流の場として参加してもらおう。体験客の接待や技術指導。 | <ul style="list-style-type: none"> ・新団体の立ち上げ ・アクティ森 ・(株)アマガタとコラボ | <ul style="list-style-type: none"> ・声かけ ・外出支援 ・交流サロン ・茶刈り |

全体 ふりかえり

①アンケート結果からワークショップを開催したことにより、高齢者や子ども世代と幅広く参加を促すような社会活動の取り組みについて、前向きな発言が多く提案された。

②ワークショップでは、地域の幅広い年齢層を対象とした社会活動について話し合わせ、天方地区住民の結束や高齢者の生きがい及びやりがい等の充足を促すことができるアイデアが多く出された。

③社会活動を地域振興に繋げていく意見が参加者からあり、地区住民にとっても、訪問者や移住者の増加は、歓迎されていることがうかがえた。